発行者情報

【表紙】

【公表書類】	発行者情報
【公表日】	2025年１月17日
【発行者の名称】	株式会社軽自動車館 （KEIJIDOUSYAKAN.Co.,Ltd.）
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長　阿部　章一
【本店の所在の場所】	北海道札幌市中央区北五条西六丁目２番２号 札幌センタービル11階
【電話番号】	011-200-0312（代表）
【事務連絡者氏名】	管理部長　佐藤　哲康
【担当Ｊ－Ａｄｖｉｓｅｒの名称】	宝印刷株式会社
【担当Ｊ－Ａｄｖｉｓｅｒの代表者の役職氏名】	代表取締役社長　白井　恒太
【担当Ｊ－Ａｄｖｉｓｅｒの本店の所在の場所】	東京都豊島区高田三丁目28番８号
【担当Ｊ－Ａｄｖｉｓｅｒの財務状況が公表されるウェブサイトのアドレス】	https://www.takara-company.co.jp/ir/reference/
【電話番号】	03-3971-3392
【取引所金融商品市場等に関する事項】	東京証券取引所　TOKYO PRO Market なお、振替機関の名称及び住所は以下のとおりです。 名称：株式会社証券保管振替機構 住所：東京都中央区日本橋兜町７番１号
【公表されるホームページのアドレス】	株式会社軽自動車館 https://www.keijidousyakan.com/ 株式会社東京証券取引所 https://www.jpx.co.jp/

【投資者に対する注意事項】

1　TOKYO PRO Marketは、特定投資家等を対象とした市場であり、その上場会社は、高い投資リスクを含んでいる場合があります。投資者は、TOKYO PRO Marketの上場会社に適用される上場適格性要件及び適時開示基準並びに市場価格の変動に関するリスクに留意し、自らの責任で投資を行う必要があります。また、投資者は、発行者情報により公表された情報を慎重に検討したうえで投資判断を行う必要があります。特に、第一部　第３　４【事業等のリスク】において公表された情報を慎重に検討する必要があります。

2　発行者情報を公表した発行者のその公表の時における役員（金融商品取引法（以下「法」という。）第21条第１項第１号に規定する役員（取締役、会計参与、監査役若しくは執行役又はこれらに準ずる者）をいう。）は、発行者情報のうちに重要な事項について虚偽の情報があり、又は公表すべき重要な事項若しくは誤解を生じさせないために必要な重要な事実に関する情報が欠けていたときは、法第27条の34において準用する法第22条の規定に基づき、当該有価証券を取得した者に対し、情報が虚偽であり又は欠けていることにより生じた損害を賠償する責任を負います。ただし、当該有価証券を取得した者がその取得の申込みの際に、情報が虚偽であり、又は欠けていることを知っていたときは、この限りではありません。また、当該役員は、情報が虚偽であり又は欠けていることを知らず、かつ、相当な注意を用いたにもかかわらず知ることができなかったことを証明したときは、上記賠償責任を負いません。

3　TOKYO PRO Marketにおける取引所規則の枠組みは、基本的な部分において日本の一般的な取引所金融商品市場に適用される取引所規則の枠組みと異なっています。すなわち、TOKYO PRO Marketにおいては、J-Adviserが重要な役割を担います。TOKYO PRO Marketの上場会社は、特定上場有価証券に関する有価証券上場規程の特例（以下「特例」という。）に従って、各上場会社のために行動するJ-Adviserを選任する必要があります。J-Adviserの役割には、上場適格性要件に関する助言及び指導、並びに上場申請手続きのマネジメントが含まれます。これらの点について、投資者は、東京証券取引所のホームページ等に掲げられるTOKYO PRO Marketに係る諸規則に留意する必要があります。

4　東京証券取引所は、発行者情報の内容（発行者情報に虚偽の情報があるか否か、又は公表すべき事項若しくは誤解を生じさせないために必要な重要な事実に関する情報が欠けているか否かという点を含みますが、これらに限られません。）について、何らの表明又は保証等をしておらず、前記賠償責任その他の一切の責任を負いません。

第一部 【企業情報】

第１【本国における法制等の概要】

該当事項はありません。

第２ 【企業の概況】

１ 【主要な経営指標等の推移】

回次		第25期中	第26期中	第27期中	第25期	第26期
会計期間		自 2022年５月１日 至 2022年10月31日	自 2023年５月１日 至 2023年10月31日	自 2024年５月１日 至 2024年10月31日	自 2022年５月１日 至 2023年４月30日	自 2023年５月１日 至 2024年４月30日
売上高	（千円）	1,944,095	2,088,642	2,021,618	3,990,296	4,255,707
経常利益	（千円）	23,192	8,533	3,597	35,752	4,390
中間（当期）純利益	（千円）	11,816	3,892	1,061	9,303	4,473
持分法を適用した場合の投資利益	（千円）	―	―	―	―	―
資本金	（千円）	44,012	44,012	44,012	44,012	44,012
発行済株式総数	（株）	51,600	51,600	51,600	51,600	51,600
純資産額	（千円）	211,648	213,028	214,670	209,135	213,609
総資産額	（千円）	1,390,052	1,492,732	1,492,893	1,544,389	1,406,547
１株当たり純資産額	（円）	4,101.72	4,128.45	4,160.28	4,053.02	4,139.71
１株当たり配当額 （１株当たり中間配当額）	（円）	― （―）	― （―）	― （―）	― （―）	― （―）
１株当たり中間（当期）純利益	（円）	228.99	75.43	20.57	180.29	86.69
潜在株式調整後１株当たり中間（当期）純利益	（円）	―	―	―	―	―
自己資本比率	（%）	15.2	14.3	14.4	13.5	15.2
自己資本利益率	（%）	5.7	1.8	0.5	4.5	2.1
株価収益率	（倍）	13.9	42.3	155.1	17.6	36.8
配当性向	（%）	―	―	―	―	―
営業活動によるキャッシュ・フロー	（千円）	△9,719	41,638	△86,299	△65,342	202,160
投資活動によるキャッシュ・フロー	（千円）	△8,477	△8,149	△4,503	△11,450	△9,288
財務活動によるキャッシュ・フロー	（千円）	25,808	△24,213	54,430	96,380	△130,842
現金及び現金同等物の中間期末（期末）残高	（千円）	57,564	78,816	95,199	69,541	131,570
従業員数 ［他、平均臨時雇用人員］	（名）	67 ［44］	74 ［43］	75 ［45］	74 ［30］	75 ［30］

（注）１．当社は中間連結財務諸表を作成しておりませんので、中間連結会計期間等に係る主要な経営指標等の推移については掲載しておりません。

２．持分法を適用した場合の投資利益については、関連会社がないため記載しておりません。

３．潜在株式調整後１株当たり中間（当期）純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

４．１株当たり配当額（１株当たり中間配当額）及び配当性向については、配当を行っていないため記載しておりません。

５．従業員数は就業人員数であり、臨時雇用人員は年間の平均人員を[ ]外数で記載しております。

2 【事業の内容】

当中間会計期間において、当社が営んでいる事業の内容に重要な変更はありません。

3 【関係会社の状況】

当中間会計期間において、重要な関係会社の異動はありません。

4 【従業員の状況】

(1) 発行者の状況

2024年10月31日現在

従業員数(名)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(千円)
75[45]	43.0	5.4	4,357

(注) 1．従業員数は就業人員数であり、臨時雇用人員は年間の平均人員を[ ]外数で記載しております。

2．平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。

3．当社は、自動車販売事業の単一セグメントであるため、セグメント別の記載を省略しております。

(2) 労働組合の状況

労働組合は結成されておりませんが、労使関係は円満に推移しております。

第３ 【事業の状況】

１ 【業績等の概要】

(1) 業績

当中間会計期間（2024年５月１日から2024年10月31日まで）におけるわが国経済は、経済活動の正常化や政府の緊急支援策、インバウンド需要の回復、企業収益の改善等、景気は緩やかな回復傾向が継続いたしました。一方で、ウクライナ情勢や中東情勢の緊迫化等、不安定な国際情勢を背景に、資源・原材料・エネルギー価格の高騰、円安による物価上昇や、「2024年問題」の顕在化による人手不足と人件費の高騰、物流コストの上昇が継続しております。また、日本銀行のマイナス金利政策の解除により今後の借入金利の動向にも注視する必要がある等、景気の先行きは依然として不透明な状況が続いております。

このような経済環境のなか、中古車販売業界におきましては、半導体供給問題の解消や新車市場の回復、インボイス制度の導入と支払総額表示の義務化により、市場の透明性と信頼性が向上いたしました。また、消費者行動の変化や選択肢の多様化も進み、中古車販売業界には新たなビジネスチャンスが生まれております。さらに、電動化と脱炭素化への対応が求められ、環境対応車の需要が高まるなか、中古車販売業界はさらなる成長が期待されております。一方で、2024年５月から2024年10月までの国内軽自動車中古販売台数は1,347,600台（前年同期比99.5%）と前年実績を下回る結果となりました。

当社におきましては、仕入コスト上昇分を販売価格へ転嫁し、収益の向上を推し進めたことにより、売上総利益率が前年実績から0.4ポイント上回りましたが、販売台数が1,725台（前年同期比88.1%）と前年実績を下回った結果、売上高及び売上総利益は前年実績を下回りました。また、引続き経費削減に努めた結果、販売費及び一般管理費は前年実績を下回りました。

以上の結果、売上高は 2,021,618 千円（前年同期比 3.2%減）、営業利益は 7,720 千円（前年同期比35.8%減）、経常利益は3,597千円（前年同期比57.8%減）、中間純利益は1,061千円（前年同期比72.7%減）となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当中間会計期間末における現金及び現金同等物の残高は、95,199千円と前事業年度末に比べ36,371千円減少いたしました。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動により使用した資金は、86,299千円となりました。これは、棚卸資産が178,142千円増加したこと、売上債権が69,287千円減少したこと、仕入債務が57,724千円増加したこと未払消費税等が47,732千円減少したこと等によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動により使用した資金は、4,503千円となりました。これは、有形固定資産の取得により4,552千円支出したこと等によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動により得られた資金は、54,430千円となりました。これは、短期借入金が81,500千円増加したこと、長期借入金を22,836千円返済したこと、リース債務を4,233千円返済したことによるものであります。

2【生産、受注及び販売の状況】

当社は自動車販売事業のみの単一セグメントであるため、セグメント別の記載を省略しております。

(1) 生産実績

当社は生産活動を行っておりませんので、該当事項はありません。

(2) 商品仕入実績

当中間会計期間の項目別仕入実績は次のとおりであります。

項目	仕入高(千円)	前年同期比(%)
商品車	1,669,864	11.8
部用品	123,937	0.2
合計	1,793,802	10.9

(3) 販売実績

当中間会計期間の店舗別販売実績は次のとおりであります。

店舗	販売高(千円)	前年同期比(%)
本社	55,611	42.5
札幌本店	151,488	1.5
新さっぽろ店	324,158	46.4
札幌東店	214,685	△7.6
札幌南店	119,412	0.2
札幌清田店	229,146	△9.1
北見店	105,506	△9.7
旭川店	59,534	△27.1
函館店	120,769	△14.1
苫小牧店	251,311	△4.6
帯広店	173,226	△24.6
釧路店	116,891	△12.5
せんだい店	99,874	△9.0
合計	2,021,618	△3.2

(注)　本社の販売高は主に保険代理店収入であります。

3【対処すべき課題】

当中間会計期間において、当社の対処すべき課題について、重要な変更はありません。

4【事業等のリスク】

当中間会計期間において、新たな事業等のリスクの発生、又は前事業年度の発行者情報に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありませんが、当社株式の東京証券取引所が運営を行っております証券市場TOKYO PRO Marketの上場維持の前提となる契約に関し、以下に記載いたします。

(担当J-Adviserとの契約の解除に関する事項について)

特定上場有価証券に関する有価証券上場規程の特例第102条の定めにより、TOKYO PRO Market上場企業は、東京証券取引所より認定を受けたいずれかの担当J-Adviserと、株式上場の適格性審査及び株式上場後の上場適格性を維持するための指導、助言、審査等の各種業務を委託する契約(以下、「J-Adviser契約」とします。)を締結する義務があります。本発行者情報公表日時点において、当社がJ-Adviser契約を締結しているのは宝印刷株式会社（以下、「同社」とします。）であり、同社とのJ-Adviser契約において当社は、下記の義務の履行が求められております。下記の義務の履行を怠り、又はJ-Adviser契約に違反した場合、相手方は、相当の期間(特段の事情のない限り１か月)を定めてその義務の履行又は違反の是正を書面で催告し、その催告期間内にその義務の履行又は違反の是正がなされなかったときは、J-Adviser契約を解除することができる旨の定めがあります。また、上記にかかわらず、当社及び同社は、両当事者による書面による合意又は相手方に対する１か月前以上の書面による通知を行うことにより、いつでもJ-Adviser契約を解約することができる旨の定めがあります。当社が同社より上記の解除にかかる催告期間中において、下記の義務の履行又は違反の是正が果たせない場合、又は同社に代わる担当J-Adviserを確保できない場合は、当社普通株式のTOKYO PRO Market上場廃止につながる可能性があります。

＜J-Adviser契約上の義務＞

・特定上場有価証券に関する有価証券上場規程の特例第113条に定める上場適格性要件を継続的に満たすこと

・特定上場有価証券に関する有価証券上場規程の特例及び特定上場有価証券に関する有価証券上場規程の特例の施行規則に従い、投資者への適時適切な会社情報の開示に努めること

・上場規程特例に定める上場会社及び新規上場申請者の義務を履行すること

また、当社において下記の事象が発生した場合には、同社からの催告なしでJ-Adviser契約を解除することができるものと定められております。

① 債務超過

当社がその事業年度の末日に債務超過の状態である場合、（上場後１年間において債務超過の状態となった場合を除く。）において、１年以内（審査対象事業年度の末日の翌日から起算して１年を経過する日（当該１年を経過する日が当社の事業年度の末日に当たらないときは、当該１年を経過する日の後最初に到来する事業年度の末日）までの期間をいう。以下、本号において同じ。また「２年以内」も同様。）に債務超過の状態でなくならなかったとき。ただし、当社が法律の規定に基づく再生手続若しくは更生手続、産業競争力強化法（以下「産競法」という。）第２条第21項に規定する特定認証紛争解決手続に基づく事業再生（当該手続が実施された場合における産競法第48条に規定する特例の適用を受ける特定調停手続による場合も含む。）又は私的整理に関するガイドライン研究会による「私的整理に関するガイドライン」に基づく整理を行うことにより、当該１年を経過した日から起算して１年以内に債務超過の状態でなくなることを計画している場合（同社が適当と認める場合に限る。）には、２年以内に債務超過の状態でなくならなかったとき。

なお、同社が適当と認める場合に適合するかどうかの審査は、当社が審査対象事業年度に係る決算（上場会社が連結財務諸表を作成すべき会社である場合には連結会計年度、連結財務諸表を作成すべき会社でない場合には事業年度に係る決算とする。）の内容を開示するまでの間において、再建計画（本号但し書に定める１年以内に債務超過の状態でなくなるための経営計画を含む。）を公表している場合を対象とし、当社が提出する当該再建計画並びに次の（ａ）及び（ｂ）に定める書面に基づき行うものとする。

（ａ）次のイからハまでに掲げる場合の区分に従い、当該イからハまでに定める書面

イ　法律の規定に基づく再生手続又は更生手続を行う場合

当該再建計画が、再生計画又は更生計画として裁判所の認可を得ているものであることを証する書面

ロ　産競法第２条第21項に規定する特定認証紛争解決手続に基づく事業再生（当該手続が実施された場合における産競法第48条に規定する特例の適用を受ける特定調停手続による場合も含む。）を行う場合

当該再建計画が、当該手続にしたがって成立したものであることを証する書面

ハ　私的整理に関するガイドライン研究会による「私的整理に関するガイドライン」に基づく整理を行う場合

当該再建計画が、当該ガイドラインに従って成立したものであることについて債権者が記載した書面

（ｂ）本号但し書に定める１年以内に債務超過の状態でなくなるための経営計画の前提となった重要な事項等が、公認会計士等により検討されたものであることについて当該公認会計士等が記載した書面

② 銀行取引の停止

当社が発行した手形等が不渡りとなり、銀行取引が停止された場合又は停止されることが確実となった場合

③ 破産手続、再生手続又は更生手続

当社が法律の規定に基づく会社の破産手続、再生手続若しくは更生手続を必要とするに至った場合（当社が、法律に規定する破産手続、再生手続又は更生手続の原因があることにより、破産手続、再生手続又は更生手続を必要と判断した場合）又はこれに準ずる状態になった場合。なお、これに準ずる状態になった場合とは、次のａからｃまでに掲げる場合その他当社が法律の規定に基づく会社の破産手続、再生手続又は更生手続を必要とするに至った場合に準ずる状態になったと同社が認めた場合をいうものとし、当該ａからｃまでに掲げる場合には当該ａからｃまでに定める日に本号前段に該当するものとして取扱う。

ａ　当社が債務超過又は支払不能に陥り又は陥る恐れがあるとき等で再建を目的としない法律に基づかない整理を行う場合

当社から当該整理を行うことについての書面による報告を受けた日

ｂ　当社が債務超過又は支払不能に陥り又は陥る恐れがあること等により事業活動の継続について困難である旨又は断念する旨を取締役会等において決議又は決定した場合であって、事業の全部若しくは大部分の譲渡又は解散について株主総会又は普通出資者総会に付議することの取締役会の決議を行った場合

当社から当該事業の譲渡又は解散に関する取締役会の決議についての書面による報告を受けた日（事業の大部分の譲渡の場合には、当該事業の譲渡が事業の大部分の譲渡であると同社が認めた日）

ｃ　当社が財政状態の改善のために、債権者による債務の免除又は第三者による債務の引受若しくは弁済に関する合意を当該債権者又は第三者と行った場合（当該債務の免除の額又は債務の引受若しくは弁済の額が直前事業年度の末日における債務の総額の100分の10に相当する額以上である場合に限る。）

当社から当該合意を行ったことについての書面による報告を受けた日

④ 前号に該当することとなった場合においても、当社が次のａからｃまでに該当する再建計画の開示を行った場合には、原則として本契約の解除は行わないものとする。

ａ　次の（ａ）又は（ｂ）に定める場合に従い、当該（ａ）又は（ｂ）に定める事項に該当すること。

（ａ）当社が法律の規定に基づく再生手続又は更生手続を必要とするに至った場合

当該再建計画が、再生計画又は更生計画として裁判所の認可を得られる見込みがあるものであること

（ｂ）当社が前号ｃに規定する合意を行った場合

当該再建計画が、前号ｃに規定する債権者又は第三者の合意を得ているものであること

b　当該再建計画に次の(ａ)及び(ｂ)に掲げる事項が記載されていること。

（ａ）TOKYO PRO Marketに上場する有価証券の全部を消却するものでないこと

（ｂ）前ａの(ａ)に規定する見込みがある旨及びその理由又は同(ｂ)に規定する合意がなされていること及びそれを証する内容

c　当該再建計画に上場廃止の原因となる事項が記載されている等公益又は投資者保護の観点から適当でないと認められるものでないこと

⑤ 事業活動の停止

当社が事業活動を停止した場合（当社の事業活動が停止されたと同社が認めた場合）又はこれに準ずる状態になった場合。なお、これに準ずる状態になった場合とは、次のａからｃまでに掲げる場合その他当社が事業活動を停止した場合に準ずる状態になった場合と同社が認めた場合をいうものとし、当該ａからｃまでに掲げる場合には当該ａからｃまでに掲げる日に同号に該当するものとして取扱う。

a　当社が、合併により解散する場合のうち、合併に際して当社の株主に対してその株券等に代わる財産の全部又は一部として次の(ａ)又は(ｂ)に該当する株券等を交付する場合は、原則として、合併がその効力を生ずる日の３日前（休業日を除外する。）の日

（ａ）TOKYO PRO Marketの上場株券等

（ｂ）特例第132条の規定の適用を受け、速やかにTOKYO PRO Marketに上場される見込みのある株券等

b　当社が、前ａに規定する合併以外の合併により解散する場合は、当社から当該合併に関する株主総会（普通出資者総会を含む。）の決議についての書面による報告を受けた日（当該合併について株主総会の決議による承認を要しない場合には、取締役会の決議（委員会設置会社にあっては、執行役の決定を含む。）についての書面による報告を受けた日）

c　当社が、ａ及び前ｂに規定する事由以外の事由により解散する場合（本条第３号ｂの規定の適用を受ける場合を除く。）は、当社から当該解散の原因となる事由が発生した旨の書面による報告を受けた日

⑥ 不適当な合併等

当社が非上場会社の吸収合併又はこれに類するもの（ⅰ　非上場会社を完全子会社とする株式交換、ⅰの２　非上場会社を子会社とする株式交換、ⅱ　会社分割による非上場会社からの事業の承継、ⅲ　非上場会社からの事業の譲受け、ⅳ　会社分割による他の者への事業の承継、ⅴ　他の者への事業の譲渡、ⅵ　非上場会社との業務上の提携、ⅶ　第三者割当による株式若しくは優先出資の割当て、ⅷ　その他非上場会社の吸収合併又はⅰからⅶまでと同等の効果をもたらすと認められる行為）で定める行為（以下本号において「吸収合併等」という。）を行った場合に、当社が実質的な存続会社でないと同社が認めた場合

⑦ 支配株主との取引の健全性の毀損

第三者割当により当社の支配株主（当社の親会社又は当社の議決権の過半数を直接若しくは間接に保有する者）が異動した場合（当該割当により交付された募集株式等の転換又は行使により支配株主が異動する見込みがある場合を含む。）において、支配株主との取引に関する健全性が著しく毀損されていると同社が認めるとき

⑧ 発行者情報等の提出遅延

当社が提出の義務を有する特定証券情報、発行者情報又は有価証券報告書等につき、特例及び法令に定める期間内に提出しなかった場合で、同社がその遅延理由が適切でないと判断した場合

⑨ 虚偽記載又は不適正意見等

次のａ又はｂに該当する場合

a　当社が開示書類等に虚偽記載を行い、かつ、その影響が重大であると同社が認める場合

b　当社の財務諸表等に添付される監査報告書等において、公認会計士等によって、監査報告書については「不適正意見」又は「意見の表明をしない」旨（天災地変等、上場会社の責めに帰すべからざる事由によるものである場合を除く。）が記載され、かつ、その影響が重大であると同社が認める場合

⑩ 法令違反及び上場契約違反等

当社が重大な法令違反又は特例に関する重大な違反を行った場合

⑪ 株式事務代行機関への委託

当社が株式事務を特例で定める株式事務代行機関に委託しないこととなった場合又は委託しないこととなることが確実となった場合

⑫ 株式の譲渡制限

当社がTOKYO PRO Marketに上場する株式の譲渡につき制限を行うこととした場合

⑬ 完全子会社化

当社が株式交換又は株式移転により他の会社の完全子会社となる場合

⑭ 指定振替機関における取扱い

当社が発行する株券が指定振替機関の振替業における取扱いの対象とならないこととなった場合

⑮ 株主の権利の不当な制限

当社が次のａからｇまでのいずれかに掲げる行為を行っている場合において、株主の権利内容及びその行使が不当に制限されていると同社が認めた場合その他株主の権利内容及びその行使が不当に制限されていると同社が認めた場合をいう。

a　買収者以外の株主であることを行使又は割当の条件とする新株予約権を株主割当て等の形で発行する買収への対抗措置（以下「ライツプラン」という。）のうち、行使価額が株式の時価より著しく低い新株予約権を導入時点の株主等に対し割当てておくものの導入（実質的に買収への対抗措置の発動の時点の株主に割当てるために、導入時点において暫定的に特定の者に割当てておく場合を除く。）

b　ライツプランのうち、株主総会で取締役の過半数の交代が決議された場合においても、なお廃止又は不発動とすることができないものの導入

c　拒否権付種類株式のうち、取締役の過半数の選解任その他の重要な事項について種類株主総会の決議を要する旨の定めがなされたものの発行に係る決議又は決定（持株会社である当社の主要な事業を行っている子会社が拒否権付種類株式又は取締役選任権付種類株式を当社以外の者を割当先として発行する場合において、当該種類株式の発行が当社に対する買収の実現を困難にする方策であると同社が認めるときは、当社が重要な事項について種類株主総会の決議を要する旨の定めがなされた拒否権付種類株式を発行するものとして取扱う。）

d　TOKYO PRO Marketに上場している株券について、株主総会において議決権を行使することができる事項のうち取締役の過半数の選解任その他の重要な事項について制限のある種類の株式への変更に係る決議又は決定

e　TOKYO PRO Marketに上場している株券より議決権の多い株式（取締役の選解任その他の重要な事項について株主総会において一個の議決権を行使することができる数の株式に係る剰余金の配当請求権その他の経済的利益を受ける権利の価額等がTOKYO PRO Marketに上場している株券より低い株式をいう。）の発行に係る決議又は決定

f　議決権の比率が300％を超える第三者割当に係る決議又は決定

g　株主総会における議決権を失う株主が生じることとなる株式併合その他同等の効果をもたらす行為に係る決議又は決定

⑯ 全部取得

当社がTOKYO PRO Marketに上場している株券に係る株式の全部を取得する場合

⑰ 株式等売渡請求による取得

特別支配株主が当社の当該銘柄に係る株式の全部を取得する場合

⑱ 株式併合

当社が特定の者以外その株主の所有するすべての株式を１株に満たない端数となる割合で株式併合を行う場合

⑲ 反社会的勢力の関与

当社が反社会的勢力の関与を受けている事実が判明した場合において、その実態がTOKYO PRO Marketの市場に対する株主及び投資者の信頼を著しく毀損したと同社が認めるとき

⑳ その他

前各号の他、公益又は投資者保護のため、同社若しくは東京証券取引所が上場廃止を適当と認めた場合

この他、株主総会の特別決議を経て、当社が東京証券取引所へ「上場廃止申請書」を提出した場合にも上場廃止となります。なお、本発行者情報公表日時点において、J-Adviser契約の解約につながる可能性のある上記の事象は発生しておりません。

5【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

6【研究開発活動】

該当事項はありません。

7【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当中間会計期間の末日現在において当社が判断したものであります。

(1) 財政状態の分析

(流動資産)

当中間会計期間末における流動資産は1,134,546千円となり、前事業年度末に比べ89,233千円の増加となりました。その主な要因は、商品が178,009千円増加したこと、現金及び預金が36,371千円減少したこと、売掛金が69,287千円減少したこと等によるものであります。

(固定資産)

当中間会計期間末における固定資産は358,347千円となり、前事業年度末に比べ2,887千円の減少となりました。その主な要因は、建物が4,356千円減少したこと、有形固定資産その他に含まれる構築物が2,187千円増加したこと等によるものであります。

(流動負債)

当中間会計期間末における流動負債は846,930千円となり、前事業年度末に比べ112,535千円の増加となりました。その主な要因は、短期借入金が81,500千円増加したこと、買掛金が57,724千円増加したこと、流動負債その他に含まれる未払消費税等が48,187千円減少したこと等によるものであります。

(固定負債)

当中間会計期間末における固定負債は431,292千円となり、前事業年度末に比べ27,250千円の減少となりました。その主な要因は、長期借入金が30,206千円減少したこと等によるものであります。

(純資産)

当中間会計期間末における純資産は214,670千円となり、前事業年度末に比べ1,061千円の増加となりました。その要因は中間純利益の計上により利益剰余金が1,061千円増加したことによるものであります。

(2) 経営成績の分析

(売上高)

売上高は前中間会計期間と比較して 67,023 千円減少し、2,021,618 千円（前年同期比 3.2%減）となりました。その主な要因は仕入コスト上昇分を販売価格に転嫁し、収益の向上を推し進めたことにより、1台当たりの売上高が 1,120 千円（前年同期比 109.1%）となりましたが、販売台数が 1,725 台（前年同期比 88.1%）と販売台数が前年実績を下回ったこと等によるものであります。

(売上総利益)

売上総利益は前中間会計期間と比較して 5,495 千円減少し、405,825 千円（前年同期比 1.3%減）となりました。売上総利益率が前年実績から 0.4 ポイント上回りましたが、売上高減少に伴い売上総利益も減少いたしました。

(販売費及び一般管理費)

販売費及び一般管理費は前中間会計期間と比較して 1,185 千円減少し、398,105 千円（前年同期比 0.3%減）となりました。その主な要因は人材確保を目的とした定期昇給等による人件費が 4,304 千円（前年同期比 2.0%増）の増加したこと、広告宣伝費等の一般経費が 5,490 千円（前年同期比 3.0%減）の減少したことによるものであります。

(営業利益)

営業利益は前中間会計期間と比較して 4,310 千円減少し、7,720 千円（前年同期比 35.8%減）となりました。

(経常利益)

経常利益は前中間会計期間と比較して 4,935 千円減少し、3,597 千円（前年同期比 57.8%減）となりました。

（中間純利益）

中間純利益は前中間会計期間と比較して 2,830 千円減少し、1,061 千円（前年同期比 72.7％減）となりました。その主な要因は特別損失として役員退職慰労金 1,000 千円を計上したこと等により、税引前中間純利益が前中間会計期間と比較して 2,848 千円減少し、2,619 千円（前年同期比 52.1％減）となり、法人税等合計が前中間会計期間と比較して 17 千円減少し、1,558 千円（前年同期比 1.1％減）を計上したことよるものであります。

(3) キャッシュ・フローの状況の分析

「１【業績等の概要】(2)キャッシュ・フローの状況」をご参照ください。

第４ 【設備の状況】

１ 【主要な設備の状況】

当中間会計期間において、主要な設備に重要な異動はありません。

２ 【設備の新設、除却等の計画】

該当事項はありません。

第５ 【発行者の状況】

１ 【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

記名・無記名の別、額面・無額面の別及び種類	発行可能株式総数（株）	未発行株式数（株）	中間会計期間末現在発行数（株）（2024年10月31日）	公表日現在発行数（株）（2025年１月17日）	上場金融商品取引所名又は登録認可金融商品取引業協会名	内容
普通株式	160,000	108,400	51,600	51,600	東京証券取引所（TOKYO PRO Market）	単元株式数は100株であります。
計	160,000	108,400	51,600	51,600	－	－

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【ＭＳＣＢ等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数増減数（株）	発行済株式総数残高（株）	資本金増減額（千円）	資本金残高（千円）	資本準備金増減額（千円）	資本準備金残高（千円）
2024年10月31日	－	51,600	－	44,012	－	－

(6)【大株主の状況】

2024年10月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数（株）	株式総数に対する所有株式数の割合(%)
阿部　章一	北海道札幌市厚別区	47,400	91.86
軽自動車館従業員持株会	北海道札幌市中央区北五条西六丁目２番２号	2,900	5.62
稲場　俊憲	北海道札幌市東区	600	1.16
近藤　充	北海道苫小牧市	200	0.39
海馬　英明	北海道札幌市北区	200	0.39
佐藤　利彌	北海道函館市	200	0.39
株式会社インサイト	北海道札幌市中央区北四条西三丁目１番地	100	0.19
計	－	51,600	100.00

(7)【議決権の状況】

①【発行済株式】

2024年10月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	－	－	－
議決権制限株式(自己株式等)	－	－	－
議決権制限株式(その他)	－	－	－
完全議決権株式(自己株式等)	－	－	－
完全議決権株式(その他)	普通株式　51,600	516	権利内容に何ら限定のない、当社における標準となる株式であり、単元株式数は100株であります。
単元未満株式	－	－	－
発行済株式総数	51,600	－	－
総株主の議決権	－	516	－

②【自己株式等】

該当事項はありません。

2【株価の推移】

月別	2024年５月	2024年６月	2024年７月	2024年８月	2024年９月	2024年10月
最高（円）	－	－	3,190	－	－	－
最低（円）	－	－	3,190	－	－	－

（注）1. 最高・最低株価は東京証券取引所 TOKYO PRO Market におけるものであります。

2. 2024年５月、６月及び2024年８月、９月、10月については、売買実績がありません。

3【役員の状況】

前事業年度の発行者情報の公表後、当中間会計期間に係る発行者情報の公表日までの役員の異動はありません。

第６ 【経理の状況】

１　中間財務諸表の作成方法について

(1) 当社の中間財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(1963年大蔵省令第59号)に基づいて作成しております。

(2) 当社の中間財務諸表は、東京証券取引所の「特定上場有価証券に関する有価証券上場規程の特例の施行規則」第116条第３項で認められた会計基準のうち、わが国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して作成しております。

２　監査証明について

当社は、東京証券取引所の「特定上場有価証券に関する有価証券上場規程の特例」第128条第３項の規定に基づき、当中間会計期間(2024年５月１日から2024年10月31日まで)の中間財務諸表について、監査法人ハイビスカスの中間監査を受けております。

３　中間連結財務諸表について

当社は子会社がありませんので、中間連結財務諸表は作成しておりません。

1 【中間財務諸表等】

(1) 【中間財務諸表】

① 【中間貸借対照表】

（単位：千円）

	前事業年度 (2024年４月30日)	当中間会計期間 (2024年10月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	131,570	95,199
売掛金	149,091	79,804
商品	725,625	903,635
貯蔵品	501	633
未収還付法人税等	1,852	－
前払費用	19,852	19,322
その他	16,819	35,951
流動資産合計	1,045,312	1,134,546
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	※１ 105,036	※１ 100,679
土地	※１ 120,761	※１ 120,761
その他（純額）	※１ 48,784	※１ 51,398
有形固定資産合計	※２ 274,581	※２ 272,839
無形固定資産	1,154	916
投資その他の資産	85,498	84,592
固定資産合計	361,234	358,347
資産合計	1,406,547	1,492,893

（単位：千円）

	前事業年度 （2024年４月30日）	当中間会計期間 （2024年10月31日）
負債の部		
流動負債		
買掛金	90,207	147,932
短期借入金	410,000	491,500
１年内返済予定の長期借入金	※１ 44,877	※１ 52,247
リース債務	6,548	4,873
未払費用	41,100	39,946
未払法人税等	1,014	1,405
前受金	53,528	72,852
賞与引当金	26,095	26,437
その他	61,024	9,736
流動負債合計	734,395	846,930
固定負債		
社債	130,000	130,000
長期借入金	※１ 273,480	※１ 243,274
リース債務	10,725	12,521
退職給付引当金	20,545	21,645
資産除去債務	21,217	21,277
その他	2,575	2,575
固定負債合計	458,543	431,292
負債合計	1,192,938	1,278,223
純資産の部		
株主資本		
資本金	44,012	44,012
利益剰余金		
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	169,597	170,658
利益剰余金合計	169,597	170,658
株主資本合計	213,609	214,670
純資産合計	213,609	214,670
負債純資産合計	1,406,547	1,492,893

② 【中間損益計算書】

（単位：千円）

	前中間会計期間 （自　2023年５月１日 至　2023年10月31日）	当中間会計期間 （自　2024年５月１日 至　2024年10月31日）
売上高	2,088,642	2,021,618
売上原価	1,677,320	1,615,792
売上総利益	411,321	405,825
販売費及び一般管理費	※ 399,290	※ 398,105
営業利益	12,030	7,720
営業外収益		
受取利息及び配当金	0	10
還付金収入	3,671	2,773
受取保険金	888	－
その他	412	445
営業外収益合計	4,973	3,229
営業外費用		
支払利息	7,290	6,447
社債利息	315	207
支払保証料	864	697
その他	0	－
営業外費用合計	8,470	7,352
経常利益	8,533	3,597
特別利益		
固定資産売却益	36	21
特別利益合計	36	21
特別損失		
固定資産除却損	3,101	0
役員退職慰労金	－	1,000
特別損失合計	3,101	1,000
税引前中間純利益	5,468	2,619
法人税、住民税及び事業税	2,766	1,405
法人税等調整額	△1,189	153
法人税等合計	1,576	1,558
中間純利益	3,892	1,061

③ 【中間株主資本等変動計算書】

前中間会計期間（自　2023年５月１日　至　2023年10月31日）

（単位：千円）

	株主資本				純資産合計
	資本金	利益剰余金		株主資本合計	
		その他利益剰余金	利益剰余金合計		
		繰越利益剰余金			
当期首残高	44,012	165,123	165,123	209,135	209,135
当中間期変動額					
中間純利益		3,892	3,892	3,892	3,892
当中間期変動額合計	－	3,892	3,892	3,892	3,892
当中間期末残高	44,012	169,016	169,016	213,028	213,028

当中間会計期間（自　2024年５月１日　至　2024年10月31日）

（単位：千円）

	株主資本				純資産合計
	資本金	利益剰余金		株主資本合計	
		その他利益剰余金	利益剰余金合計		
		繰越利益剰余金			
当期首残高	44,012	169,597	169,597	213,609	213,609
当中間期変動額					
中間純利益		1,061	1,061	1,061	1,061
当中間期変動額合計	－	1,061	1,061	1,061	1,061
当中間期末残高	44,012	170,658	170,658	214,670	214,670

④ 【中間キャッシュ・フロー計算書】

（単位：千円）

	前中間会計期間 （自　2023年５月１日 至　2023年10月31日）	当中間会計期間 （自　2024年５月１日 至　2024年10月31日）
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前中間純利益	5,468	2,619
減価償却費	10,410	10,433
受取利息及び配当金	△0	△10
支払利息及び社債利息	7,606	6,654
支払保証料	864	697
還付金収入	△3,671	△2,773
受取保険金	△888	－
固定資産売却益	△36	△21
固定資産除却損	3,101	0
役員退職慰労金	－	1,000
売上債権の増減額（△は増加）	3,304	69,287
棚卸資産の増減額（△は増加）	60,230	△178,142
仕入債務の増減額（△は減少）	△31,017	57,724
賞与引当金の増減額（△は減少）	4,735	342
前受金の増減額（△は減少）	△6,961	19,323
未払金の増減額（△は減少）	1,464	△2,745
未払消費税等の増減額（△は減少）	9,486	△47,732
退職給付引当金の増減額（△は減少）	1,440	1,099
その他	△9,058	△19,082
小計	56,477	△81,326
利息及び配当金の受取額	0	10
利息及び保証料の支払額	△10,150	△7,594
還付金の受取額	3,671	2,773
保険金の受取額	888	－
役員退職慰労金の支払額	－	△1,000
法人税等の還付額	－	1,852
法人税等の支払額	△9,249	△1,014
営業活動によるキャッシュ・フロー	41,638	△86,299
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△4,886	△4,552
有形固定資産の除却による支出	△2,400	－
有形固定資産の売却による収入	36	22
その他	△900	27
投資活動によるキャッシュ・フロー	△8,149	△4,503
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額（△は減少）	△45,500	81,500
長期借入による収入	51,858	－
長期借入金の返済による支出	△26,382	△22,836
リース債務の返済による支出	△4,189	△4,233
財務活動によるキャッシュ・フロー	△24,213	54,430
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	9,275	△36,371
現金及び現金同等物の期首残高	69,541	131,570
現金及び現金同等物の中間期末残高	※ 78,816	※ 95,199

【注記事項】

（重要な会計方針）

1　棚卸資産の評価基準及び評価方法

商品及び貯蔵品

個別法による原価法（収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）

2　固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産（リース資産を除く）

建物（建物附属設備は除く）

・2007年３月31日以前に取得したもの

旧定額法によっております。

・2007年４月１日以降に取得したもの

定額法によっております。

建物以外

・2007年３月31日以前に取得したもの

旧定率法によっております。

・2007年４月１日以降に取得したもの

定率法によっております。

・2016年４月１日以降に取得した建物附属設備及び構築物

定額法によっております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物　　７年～34年

構築物　　４年～20年

(2) 無形固定資産（リース資産を除く）

定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

ソフトウエア（自社利用分）　５年（社内における利用可能期間）

(3) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数として、残存価額を零とする定額法を採用しております。

3　引当金の計上基準

(1) 賞与引当金

従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額を計上しております。

(2) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務の見込額に基づき当中間会計期間末において発生していると見込まれる額を計上しております。

退職給付引当金及び退職給付費用の計算については、退職給付に係る中間期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

4　重要な収益及び費用の計上基準

当社の顧客との契約から生じる収益に関する主要な事業における主な履行義務の内容及び当該履行義務を充足する通常の時点（収益を認識する通常の時点）は以下のとおりであります。

・自動車販売事業

自動車販売事業においては、主に軽自動車販売を行っております。このような軽自動車の販売については、車両を登録した時点で収益を認識しております。また、販売した車両に対し修理等の保証サービスを提供しております。当該サービスは、保証期間にわたり履行義務が充足されると判断し、履行義務の充足に係る期間に基づき収益を認識しております。

５　中間キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なリスクしか負わない取得日から３か月以内に償還期限の到来する短期的な投資からなっております。

（中間貸借対照表関係）

※１　担保資産及び担保付債務

担保に供している資産及び担保付債務は次のとおりであります。

	前事業年度 （2024年４月30日）	当中間会計期間 （2024年10月31日）
建物	24,677千円	23,383千円
構築物	846千円	744千円
土地	120,761千円	120,761千円
計	146,284千円	144,888千円

	前事業年度 （2024年４月30日）	当中間会計期間 （2024年10月31日）
１年内返済予定の長期借入金	10,869千円	9,939千円
長期借入金	43,318千円	38,416千円
計	54,187千円	48,355千円

※２　有形固定資産の減価償却累計額

	前事業年度 （2024年４月30日）	当中間会計期間 （2024年10月31日）
有形固定資産の減価償却累計額	132,973千円	142,543千円

（中間損益計算書関係）

※　減価償却実施額は、次のとおりであります。

	前中間会計期間 （自　2023年５月１日 （至　2023年10月31日）	当中間会計期間 （自　2024年５月１日 （至　2024年10月31日）
有形固定資産	10,172千円	10,194千円
無形固定資産	238千円	238千円

（中間株主資本等変動計算書関係）

前中間会計期間（自　2023年５月１日　至　2023年10月31日）

１．発行済株式の種類及び総数に関する事項

株式の種類	当事業年度期首株式数（株）	当中間会計期間増加株式数（株）	当中間会計期間減少株式数（株）	当中間会計期間末株式数（株）
普通株式	51,600	－	－	51,600
合計	51,600	－	－	51,600

２．自己株式の種類及び株式数に関する事項

該当事項はありません。

３．新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

４．配当に関する事項

該当事項はありません。

当中間会計期間（自　2024年５月１日　至　2024年10月31日）

１．発行済株式の種類及び総数に関する事項

株式の種類	当事業年度期首株式数（株）	当中間会計期間増加株式数（株）	当中間会計期間減少株式数（株）	当中間会計期間末株式数（株）
普通株式	51,600	－	－	51,600
合計	51,600	－	－	51,600

２．自己株式の種類及び株式数に関する事項

該当事項はありません。

３．新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

４．配当に関する事項

該当事項はありません。

（中間キャッシュ・フロー計算書関係）

※　現金及び現金同等物の中間期末残高と中間貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前中間会計期間 （自　2023年５月１日 至　2023年10月31日）	当中間会計期間 （自　2024年５月１日 至　2024年10月31日）
現金及び預金	78,816千円	95,199千円
現金及び現金同等物	78,816千円	95,199千円

（リース取引関係）

（借主側）

ファイナンス・リース取引

所有権移転外ファイナンス・リース取引

①　リース資産の内容

有形固定資産

主として店舗におけるＬＥＤ照明設備（「工具、器具及び備品」）であります。

②　リース資産の減価償却の方法

重要な会計方針「２．固定資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

（金融商品関係）

１．金融商品の時価等に関する事項

中間貸借対照表（貸借対照表）計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

前事業年度（2024年４月30日）

	貸借対照表計上額 （千円）	時価 （千円）	差額 （千円）
社債	130,000	129,971	△28
長期借入金(※１)	318,357	316,535	△1,821
負債計	448,357	446,507	△1,849

（※１）１年内返済予定の長期借入金を含めております。

（※２）「現金及び預金」「売掛金」「買掛金」「短期借入金」「前受金」については、現金であること及び短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似するものであることから、記載を省略しております。

当中間会計期間（2024年10月31日）

	中間貸借対照表計上額 （千円）	時価 （千円）	差額 （千円）
社債	130,000	130,000	－
長期借入金(※１)	295,521	295,301	△219
負債計	425,521	425,301	△219

（※１）１年内返済予定の長期借入金を含めております。

（※２）「現金及び預金」「売掛金」「買掛金」「短期借入金」「前受金」については、現金であること及び短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似するものであることから、記載を省略しております。

２．金融商品の時価のレベルごとの内訳等に関する事項

金融商品の時価を、時価の算定に係るインプットの観察可能性及び重要性に応じて、以下の３つのレベルに分類しております。

レベル１の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、活発な市場において形成される当該時価の算定の対象となる資産又は負債に関する相場価格により算定した時価

レベル２の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、レベル１のインプット以外の時価の算定に係るインプットを用いて算定した時価

レベル３の時価：観察できない時価の算定に係るインプットを使用して算定した時価

時価の算定に重要な影響を与えるインプットを複数使用している場合には、それらのインプットがそれぞれ属するレベルのうち、時価の算定における優先順位が最も低いレベルに時価を分類しております。

(1) 時価で中間貸借対照表（貸借対照表）に計上している金融商品

該当事項はありません。

(2) 時価で中間貸借対照表（貸借対照表）に計上している金融商品以外の金融商品

前事業年度（2024年４月30日）

区分	時価(千円)			
	レベル１	レベル２	レベル３	合計
社債	－	129,971	－	129,971
長期借入金	－	316,535	－	316,535
負債計	－	446,507	－	446,507

当中間会計期間（2024年10月31日）

区分	時価(千円)			
	レベル１	レベル２	レベル３	合計
社債	－	130,000	－	130,000
長期借入金	－	295,301	－	295,301
負債計	－	425,301	－	425,301

（注）時価の算定に用いた評価技法及び時価の算定に係るインプットの説明

社債

社債の時価は、元利金の合計額を当該社債の残存期間及び信用リスクを加味した利率で割引いた現在価値により算定しており、その時価をレベル２の時価に分類しております。

長期借入金

長期借入金の時価は、元利金の合計額を同様の新規借入れを行った場合に想定される利率で割引いた現在価値により算定しており、その時価をレベル２の時価に分類しております。

（資産除去債務関係）

１．資産除去債務のうち中間貸借対照表（貸借対照表）に計上しているもの

（１）当該資産除去債務の概要

本社オフィス及び整備工場の不動産賃貸借契約に伴う原状回復義務等であります。

（２）当該資産除去債務の金額の算定方法

使用見込み期間を取得から12年～38年と見積り、割引率は0.345％～0.703％を使用して資産除去債務の金額を計算しております。

（３）当該資産除去債務の総額の増減

	前事業年度 （自　2023年５月１日 至　2024年４月30日）	当中間会計期間 （自　2024年５月１日 至　2024年10月31日）
期首残高	21,097千円	21,217千円
時の経過による調整額	119千円	60千円
中間期末（期末）残高	21,217千円	21,277千円

２．資産除去債務のうち中間貸借対照表（貸借対照表）に計上していないもの

当社は賃貸借契約に基づき使用する店舗に対して、退去時における原状回復義務を有しております。しかし、現時点において店舗移転等の計画が未定であることから、一部の店舗については資産除去債務を合理的に見積ることが極めて困難であるため、資産除去債務を計上しておりません。

（収益認識関係）

１．顧客との契約から生じる収益を分解した情報

（単位：千円）

	店舗	前中間会計期間 （自　2023年５月１日 至　2023年10月31日）	当中間会計期間 （自　2024年５月１日 至　2024年10月31日）
自動車販売事業	本社	39,017	55,611
	札幌本店	149,194	151,488
	新さっぽろ店	221,410	324,158
	札幌東店	232,226	214,685
	札幌南店	119,162	119,412
	札幌清田店	252,070	229,146
	北見店	116,845	105,506
	旭川店	81,608	59,534
	函館店	140,553	120,769
	苫小牧店	263,371	251,311
	帯広店	229,840	173,226
	釧路店	133,560	116,891
	せんだい店	109,781	99,874
	小計	2,088,642	2,021,618
顧客との契約から生じる収益		2,088,642	2,021,618
その他の収益		－	－
外部顧客への売上高		2,088,642	2,021,618

（注）　本社の販売高は主に保険代理店収入であります。

２．顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報

収益を理解するための基礎となる情報は、「（重要な会計方針）４　重要な収益及び費用の計上基準」に記載のとおりであります。

３．顧客との契約に基づく履行義務の充足と当該契約から生じるキャッシュ・フローとの関係並びに当中間会計期間末において存在する顧客との契約から当中間会計期間の末日後に認識すると見込まれる収益の金額及び時期に関する情報

前事業年度の末日に比して著しい変動が認められないため、記載を省略しております。

（セグメント情報等）

【セグメント情報】

前中間会計期間（自　2023年５月１日　至　2023年10月31日）

当社の事業セグメントは、自動車販売事業のみの単一セグメントであるため、セグメント情報の記載を省略しております。

当中間会計期間（自　2024年５月１日　至　2024年10月31日）

当社の事業セグメントは、自動車販売事業のみの単一セグメントであるため、セグメント情報の記載を省略しております。

【関連情報】

前中間会計期間（自　2023年５月１日　至　2023年10月31日）

１　製品及びサービスごとの情報

単一の製品・サービスの区分の外部顧客への売上高が中間損益計算書の売上高の90％を超えるため、記載を省略しております。

２　地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦以外の外部顧客への売上高がないため、該当事項はありません。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

３　主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、中間損益計算書の売上高の10％以上を占める相手先がないため記載はありません。

当中間会計期間（自　2024年５月１日　至　2024年10月31日）

１　製品及びサービスごとの情報

単一の製品・サービスの区分の外部顧客への売上高が中間損益計算書の売上高の90％を超えるため、記載を省略しております。

２　地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦以外の外部顧客への売上高がないため、該当事項はありません。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

３　主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、中間損益計算書の売上高の10％以上を占める相手先がないため記載はありません。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前中間会計期間（自　2023年５月１日　至　2023年10月31日）

該当事項はありません。

当中間会計期間（自　2024年５月１日　至　2024年10月31日）

該当事項はありません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前中間会計期間（自　2023年５月１日　至　2023年10月31日）

該当事項はありません。

当中間会計期間（自　2024年５月１日　至　2024年10月31日）

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前中間会計期間（自　2023年５月１日　至　2023年10月31日）

該当事項はありません。

当中間会計期間（自　2024年５月１日　至　2024年10月31日）

該当事項はありません。

（１株当たり情報）

	前事業年度 (2024年４月30日)	当中間会計期間 (2024年10月31日)
１株当たり純資産額	4,139.71円	4,160.28円

１株当たり中間純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前中間会計期間 （自　2023年５月１日 至　2023年10月31日）	当中間会計期間 （自　2024年５月１日 至　2024年10月31日）
１株当たり中間純利益	75.43	20.57
（算定上の基礎）		
中間純利益(千円)	3,892	1,061
普通株主に帰属しない金額(千円)	－	－
普通株式に係る中間純利益(千円)	3,892	1,061
普通株式の期中平均株式数(株)	51,600	51,600

（注）　潜在株式調整後１株当たり中間純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

（重要な後発事象）

該当事項はありません。

(2)【その他】

該当事項はありません。

第７【外国為替相場の推移】

該当事項はありません。

第二部【特別情報】

第１【外部専門家の同意】

該当事項はありません。

独立監査人の中間監査報告書

2025年１月17日

株式会社軽自動車館
　取締役会　御中

監査法人ハイビスカス
　札幌事務所
指定社員
業務執行社員　公認会計士　北村 心子

指定社員
業務執行社員　公認会計士　御器理人

中間監査意見

当監査法人は、株式会社東京証券取引所の特定上場有価証券に関する有価証券上場規程の特例第128条第３項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社軽自動車館の2024年５月１日から2025年４月30日までの第27期事業年度の中間会計期間（2024年５月１日から2024年10月31日まで）に係る中間財務諸表、すなわち、中間貸借対照表、中間損益計算書、中間株主資本等変動計算書、中間キャッシュ・フロー計算書、重要な会計方針及びその他の注記について中間監査を行った。

当監査法人は、上記の中間財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社軽自動車館の2024年10月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する中間会計期間（2024年５月１日から2024年10月31日まで）の経営成績及びキャッシュ・フローの状況に関する有用な情報を表示しているものと認める。

中間監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準における当監査法人の責任は、「中間財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

中間財務諸表に対する経営者及び監査役の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して中間財務諸表を作成し有用な情報を表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間財務諸表を作成し有用な情報を表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

中間財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき中間財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

中間財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した中間監査に基づいて、全体として中間財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽表示がないかどうかの合理的な保証を得て、中間監査報告書

において独立の立場から中間財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、中間財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に従って、中間監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

・不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応する中間監査手続を立案し、実施する。中間監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。なお、中間監査手続は、年度監査と比べて監査手続の一部が省略され、監査人の判断により、不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示リスクの評価に基づいて、分析的手続等を中心とした監査手続に必要に応じて追加の監査手続が選択及び適用される。

・中間財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な中間監査手続を立案するために、中間財務諸表の作成と有用な情報の表示に関連する内部統制を検討する。

・経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。

・経営者が継続企業を前提として中間財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、中間監査報告書において中間財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する中間財務諸表の注記事項が適切でない場合は、中間財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、中間監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。

・中間財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた中間財務諸表の表示、構成及び内容、並びに中間財務諸表が基礎となる取引や会計事象に関して有用な情報を表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査役に対して、計画した中間監査の範囲とその実施時期、中間監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む中間監査上の重要な発見事項、及び中間監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以　上